介 護 職 員 自 己 評 価 表

2023年12月13日

事業所名	介護老人福祉施設　喜入の里ユニット

	正社員	非常勤社員
介護支援専門員	1人	
あん摩マッサージ指圧師	1人	
看護師	3人	3人
介護福祉士	8人	1人
実務者・初任者研修	3人	4人

※複数資格者含む

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	備　考
前回の課題に関する改善	9.9%	40.5%	28.9%	20.7%	

前回の改善計画

新型コロナが5類感染症に変更され、ご入居者とご家族様との直接面会をはじめ、祭りなどの行事がおこなえるようになり、季節を感じてもらえるイベントを計画した。ご入居者が話したいときに話せる環境として、「ちょっとした声掛け」が多い施設を目指し、心理療法が提供される業務に変更することで、活動と落ち着きのある穏やかな暮らしを目指した。回想ライブラリーを活用した回想療法、表情解析に基づいたSOLOデジタルセラピーなどによりQOLの改善を計画した。自発的な訴えができない方では、便もれに至らないために、匂いを感じ取りオムツ交換のタイミングを計る、ひとり一人に適したオムツ交換を目指した。一方、鹿児島市のインフルエンザ流行発生警報によりパネルやガラス越し面会・オンライン面会を余儀なくされ対応策が問われた。

前回の改善計画に対する取組み結果

鹿児島市のインフルエンザ流行発生警報により、ご入居者とご家族様との直接面会を中止せざるを得なくなり、ガラス越し面会・オンライン面会により関係性の確保を図ったが、気持ちや想いが伝わり難いなどのご意見があり、コロナ禍で定着していた、日頃の暮らしぶりや心身の状態をご家族へ報告する機会をガラス越し面会のタイミングでおこなった。要望の多かったLINEを活用した面会システムが導入済みであったこともあり、日頃の暮らしぶりは伝わったとするお声をもらった。スタッフのメンタルストレスの解消については、業務から独立した人事部の個別面談にあわせて、実務経験の長い上席によるスーパービジョンに努めた。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目(偏差値)		よく できている (60以上)	なんとか できている (50～59)	あまり できていない (40～49)	ほとんど できていない (39以下)	合　計
SECTION　1	対象者の接し方や態度について	0.0%	54.5%	18.2%	27.3%	100%
SECTION　2	仕事上の態度について	18.2%	36.4%	18.2%	27.3%	100%
SECTION　3	食事について	0.0%	45.5%	36.4%	18.2%	100%
SECTION　4	移乗や移動について	0.0%	54.5%	27.3%	18.2%	100%
SECTION　5	排泄について	27.3%	27.3%	27.3%	18.2%	100%
SECTION　6	入浴について	0.0%	45.5%	36.4%	18.2%	100%
SECTION　7	着替えや整容について	9.1%	45.5%	27.3%	18.2%	100%
SECTION　8	服薬について	9.1%	45.5%	18.2%	27.3%	100%
SECTION　9	意思疎通について	9.1%	36.4%	36.4%	18.2%	100%
SECTION　10	行動障害について	18.2%	27.3%	36.4%	18.2%	100%
SECTION　11	普通の生活やアクティビティについて	18.2%	27.3%	36.4%	18.2%	100%

自己評価及び改善が必要な事項

自己資源を活かす回想療法や表情解析に基づいた心理療法などを活かして活動と落ち着きのある暮らしを目指した。レクリエーションや軽運動は、ユニットを跨いだ中規模介入と、2～3人の小グループでおこなう小規模介入でQOLの改善を目指した。一方中等度の認知症の方では、中規模介入は難しく、小規模で介入するほうが意欲を引出せることが分かった。プログラムの選定だけでなく、ひとり一人に適した人数を検討したうえで介入する必要があった。排泄介助については、高性能なオムツが開発され、尿についての課題は解決されつつあるものの、便については適宜交換が難しく、オムツの交換タイミングが課題であった。交換タイミングは匂いを把握しておこなっているが、感じ取るスキルについては個人差があり、半分ほどの介護職員は自信が持てずにいる。なかでも便もれは、ご入居者のQOLを低下させ、スタッフに過大な負担を強いることから、研修を通してスキルだけでなく勘所をつかんでもらう必要があった。スタッフのストレスは、人事部の個別面談、高頻度のスーパービジョンでスタッフの課題に寄り添うように努めたが、さらなる検討が必要であった。

主任 水枝谷 芳文

外部評価者

新型コロナが5類に移行され、入居者と家族の直接面会ができるようになったのは喜ばしいことです。残念なことに、約３年ぶりにインフルエンザ流行発生注意報が発令され、直接面会の中止に至ったようです。鹿児島でもコロナとインフル両方に感染する方が増えるなど、もうしばらくの間、何らかの対応をせざるを得ないと思います。ケアではレクリエーションと排泄に注力していました。レクリエーション活動は、中等度の認知症では２～３人で行うと意欲を導き出しやすく、体を使うレクリエーションに取り組んでもらえやすいようでした。個別または少人数単位で行う個別レクリエーションは自分のペースで楽しめる特徴はありますが、他者とコミュニケーションをとりながら楽しむことはできないデメリットも合わせて検討する必要があります。適するプログラムと人数を検討してたうえで提供していることは評価できます。一方排泄介助は、ひとり一人に適したタイミングに近づけることはできると思いますが、正確な把握はでき難いように思えます。自己評価表をみると、できていると感じている方は55%、できていないと感じている方は45%です。実務経験が長い方が多いことをみれば、難しいことを念頭において取り組む必要がありそうです。総合的な評価は、入居者に合わせた個別ケアが提供され、介護職員に対する専門的な教育と研修が行われ、ストレス管理に努めていることが推察されました。これからも、地域に根ざした事業所として頑張ってください。

〒891-0141 鹿児島市谷山中央5丁目37-11-302
特定非営利活動法人かごしま福祉開発研究所
博 士（社 会 福 祉 学）田　中　安　平